

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400341	事業の開始年月日	平成26年12月1日
		指定年月日	平成26年12月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア菅仙谷の宿		
所在地	(214-0006) 神奈川県川崎市多摩区菅仙谷3-7-7		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	15 名
		宿泊定員	9 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成28年3月2日	評価結果 市町村受理日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?0open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緊急利用も随時承ります。
菅仙谷の宿では、外出・外食イベントも定期的の実施しております。
地域交流を大切に、近隣の方や他拠点のご利用者様もお気軽に菅仙谷の宿に来られ、他者との地域交流を深めております。また今後更なる地域交流とし、近隣高校とのコラボ交流も検討しております。
ご利用者様・ご家族様の様々なご要望、お困りなこと、ヒューマンライフケア菅仙谷の宿が、お手伝いさせていただきます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年3月11日	評価機関 評価決定日	平成28年4月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は小田急線読売ランド前駅から徒歩約12分の閑静な住宅街に立地し、同一建物内にグループホームが併設されています。開所してまだ日は浅く、通いサービスを中心に、泊りサービスと訪問介護サービスの3つの機能を柔軟に組み合わせ、住み慣れた地域での暮らしを支援しています。

＜優れている点＞

理念は、開設当初に運営法人の代表者が介護への思いを込めて、「笑顔」と「こころ」いつでも利用者が真ん中とし、職員は利用者に沿った個別ケアサービスを常に念頭に入れて日頃の介護・介助に取り組んでいます。

運営推進会議は2ヶ月に1回、同一法人のグループホームと合同で開催しています。会議では事業所の運営状況や活動内容、外部評価の受審について説明し、意見交換を行い、事業所の透明性やサービス内容の開示に努めています。

＜工夫点＞

通所サービス利用者には送迎時の声掛けや家族との「通所記録」を活用し、「ご家族様より」の要望を採り入れています。訪問サービス利用者には、「サービス提供記録簿」にて食事介助や水分補給、安否確認、服薬管理などのサービス内容を行い、介護計画に反映しています。

事業所のパンフレットが、小規模多機能型居宅介護事業所の利用事例を具体的にわかりやすく説明し、サービスを受けようとする利用者にとって大変参考となる内容となっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア菅仙谷の宿
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念 「笑顔」と「こころ」いつでも人が真ん中 毎日朝礼で唱和し、ご利用者様、ご来訪者様に対しての「おもてなしの心」で日々業務を遂行している。	理念は、開設当初に運営法人の代表者が介護への思いを込めて作成し、毎朝の申し送り時に唱和しています。管理者は新入職員研修時に説明し、職員は日頃の介護・介助の中で、お互いに確かめ合い実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域交流として、他拠点のご利用者様を自拠点にお連れしたり、自拠点のご利用者様を他拠点にお連れし、地域交流を深める取り組みを行っている。	町内会に加入し、地域の道路清掃を行っています。近くの高校の文化部、調理部、演劇部との交流や体験学習の受け入れなども検討しています。	地域とのつながりを大切にするためにも、祭りで神輿や盆踊りを見物したり、近隣の学校や保育園・幼稚園、ボランティアとの交流を深めるなど取り組みが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実施無し。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加者様への意見・」要望は迅速に対処し、より良いサービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、同一法人のグループホームと合同で開催しています。会議では事業所の運営状況や活動内容、外部評価の受審について説明し、意見交換を行い、理解と支援を得るように努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	包括支援センター等、ご利用検討者からの相談毎等連絡を密にとり、信頼関係を築けるように努めている。	管理者は介護保険課や生活保護課へ運営面を報告し、相談をしています。希望があれば家族に代わって介護保険の認定更新手続きを行い、立会いもしています。小規模多機能連絡会に加入して研修会や勉強会へ出席し、情報収集に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	対象利用者様はいないが、身体拘束とは何か？を勉強会を行い知識を深めている。	職員は身体拘束に関するマニュアルにより勉強会を行い、正しい理解に努めています。玄関は防犯上と安全面から、家族の要請により、施錠しています。利用者の帰宅願望の際には職員と一緒に外出し、見守りに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修実施済み。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年内に勉強会を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施済み。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族や利用者からの意見や要望には迅速に対応している。	運営推進会議や朝夕の送迎時、連絡ノートで家族からの意見や要望を聞き運営面に反映しています。家族から、利用者は日中リハビリパンツでも夜間は尿漏れの心配があるので紙おむつを使用してほしいとの要望があり、応じています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月会議を行っている。	管理者は月1回の全体会議や朝の申し送り時に日常業務の要望や意見を聞き、業務の改善や向上に反映させています。職員から、外出に加え、室内のレクリエーションを増やすため、食事作りやおやつ作りなどの企画の提案があり、検討中です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に来られ、細かな声掛けをして頂いているので、職場環境等、職員皆やりがいを感じ業務を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的にロールプレイング等を行い、スキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	小規模連絡会で同業者との交流を行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント時、本人・家族の要望を聴取し、ケアプランに繋げている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメント時、本人・家族の要望を聴取し、ケアプランに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	対応に努めケアプランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	尊厳と信頼関係に努める様徹底している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との信頼関係と絆を深め関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの生活歴を重視し、その方の日常生活の支援に努めている。	利用者は家族と一緒に馴染みの店へ外食に出掛けています。今まで行っていた家事や買い物ができなくなっている利用者のため、職員はできるだけ一緒に行うように心掛けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しないよう、利用者間との間に隙間があるようならば、職員が中に入り共に支えあえる様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご逝去されたご利用者様の家族が、相談毎があり、それに対して親身になり職員が対応した事がある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	要望重視している。	職員は利用者の日常の行動や表情の中から意向や希望を汲み取るように努めています。朝夕の送迎時に家族から生活歴を聞くこともあります。意向を自分から伝えにくい人には、利用者と一対一になる入浴時などに話を聞き、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ヒヤリングで聴取している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	自立支援に努め、出来ることはやって頂き、出来ないことは職員と一緒にやって行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャーが中心となり、現状見直す事があればプランの変更を行っている。	入居希望時に自宅や病院を訪問し、利用者・家族と話し合っています。アセスメントなどを参考にして暫定プランを作成後、カンファレンスし、医師の意見を参考にして介護計画を作成しています。見直しは通常6ヶ月毎に行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用時、サービス提供記録や連絡ノートに記載し、職員間で情報共有し、見直す点等あれば意見を述べ合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	マニュアル的なサービスは行っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その方にあった資源があれば活用し、楽しめる様、支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医師の選択を確認し、必要であれば協力医療機関を紹介している。	本人や家族が希望する在宅の医療機関を継続して受診しています。歯科医も今までのかかりつけ医の受診をしています。医療情報は受診報告書に記録し、職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現在医療処置が必要な方はいない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	SWとの関係づくりを密にし、お互いに何かあった時は相談できる様、定期的に医療機関に出向いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルな方がいないのでまだ実施はしていない。	利用者・家族には、入居時に緊急時における対応について説明しています。急変時は速やかに主治医、看護師、家族、職員が話し合い、最期の時点まで最善の支援を行う方針であり、職員間でも共有しています。	利用者の緊急時や重度化に備えて勉強会を行い、一層充実した体制を整え、共有することが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のフローあり。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年に2回行っている。	防災・避難訓練は、年2回、同一建物内のグループホームと合同で消防署の協力を得て実施しています。職員は事業所の近隣に住居があり、緊急時には駆けつけられる体制にあります。非常災害用の食料・飲料水は備蓄しています。	訓練は夜間想定を含めて行い、地域の協力が得られるよう運営推進会議などで呼びかけることが期待されます。備蓄も一覧表を作成して管理するなど、一層充実した災害対策が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳は重視している。	利用者の一人ひとりの意向を第一と考え、「笑顔」と「こころ」、いつでも利用者が真ん中の理念をサービスの根幹として職員は取り組んでいます。個人情報を含む書類は、施錠のできるキャビネットに保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の意思を尊重している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の意思を尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望に応じて理美容の手配を行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に出来ることは基本ご利用者様、職員と一緒にやっている。	利用者は職員と一緒に、一人ひとり、できる力に合わせて調理、配膳、下膳などを行っています。献立と食材は外部業者に委託し職員が調理をしています。利用者の好みを入れた献立や外食支援も行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	治療食が必要な方や嚥下機能が低下している方は加工食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、うがい、義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録を参照にし、排泄の声掛けを行っている。	排泄チェック表により、排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を支援しています。利用者の一人ひとりの水分摂取量にも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	バランスの良い食材を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人の希望の時間で入浴を出来るように、可能な限りの支援を行っている。	入浴時間や湯の温度など個々の入浴習慣や希望なども把握し、好みに合った入浴支援に努めています。リフト浴も完備されています。入浴を好まない人には、無理強いせず、時間を見計らってさりげなく誘導支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	疲労や体調が優れない時や、昼寝の習慣がある方はベッドで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	状態に変化がみられると判断した時は、早急にK Pへ連絡し、報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	配膳、食器洗い等、望まれる方には積極的に行っていただくようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の意思を尊重し、外に出たいときは一緒に付添、ストレスを感じないようにするよう支援している。	天気が良ければ事業所の周りの平坦なコースを散歩しています。近くのスーパーやコンビニエンスストアへ職員と一緒に買い物に出掛けています。梅林や桜並木、ハナミズキなど四季折々に咲く散歩コースにも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭を持っていないと不安な方には、少額にはなってしまうが所持して頂き、買い物など必要な時には職員が同行して支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者希望時、家族との連絡方法がうまく取れない方には、職員が連絡方法を教え安心感を与えるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境整備を行っている。	リビングは、清潔に保たれています。窓辺からはケヤキの樹が見え、四季の移り変わりが感じられます。また、トイレや浴室、泊りの居室への移動は動線を短くし負担を少なくする工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	希望により個室を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	特に大きな制限はしていない。	宿泊サービスの居室は9室あります。各居室は不安を感じない広さで落ち着いた色調の家具が備え付けられています。利用者は身の回り品を持込み、居心地よく過ごせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	調理や配膳片付け等、本人の有する能力を活かし自立支援に努めている。		